

令和4年度

小学部 自閉症学級グループ 研究報告

1 研究の経過



<令和4年度>

- ・学習指導要領を使い、対象児童の「国語」「算数」「図工」「音楽」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

小学部2組 遊びの指導 「みるみるあそび」 T1授業者 奥平 桜

児童生徒の実態	自閉症学級（1年生3名、2年生3名） ・見通しをもつことで授業に参加できる。 ・繰り返し取り組むことでやり方を理解することができる。 ・指導者や友達に注目して模倣することができる。		
本時の目標	・簡単な決まりのある遊びについて知り、やり方を理解して自ら遊ぶことができる。 ・指導者や友達と一緒にやりとりしながら遊ぶことができる。 ・準備したい家ややりたい役を選ぶことができる。		
つきたい力	・やるべきことが分かって自分で取り組める力 ・見通しをもって活動できる力 ・できることを増やし、自信をもっていろいろな活動に取り組む力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める  見通しを持つ		

○授業の様子



○成果

- ・今の時期だからこそ、友達との輪の広がりのある今回の授業ができた。
- ・音楽の授業とつながりをもたせることができた。
- ・休み時間にも再現遊びをする姿があった。

○課題

- ・対象児童が欠席だったので残念。対象児童がいたら、もっと終わりを分かりやすくする必要があった。
- ・プロジェクターで家や風景を映すとさらに想像力豊かに遊び込めることも考えられる。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・児童の実態に合った題材設定の大切さを感じた。
- ・児童が「選ぶ」場面が多く設定されており、主体的に活動していた。
- ・やることがシンプルで分かりやすかった。「めあて」の提示があるとさらに分かりやすくなる。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・学習指導要領を開く頻度が増えた。
- ・つけたい力を明確にしたことで、学級間で児童の見立てをすり合わせることができ、授業のねらいがぶれなかった。
- ・どこかのタイミングで「つけたい力」を振り返って再検討できるとよかった。

4 次年度に向けて

- ・学習指導要領を開いて確認したので、来年度は活用に力を入れる。
- ・ピクトグラムが分かりやすかったので、日々の略案でも使いたい。
- ・全学級が同じ教科・領域で授業して研究するのも面白そう。

小学部 知的グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和4年度>

- ・学習指導要領を使い、対象児童の「国語」「算数」「図工」「音楽」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

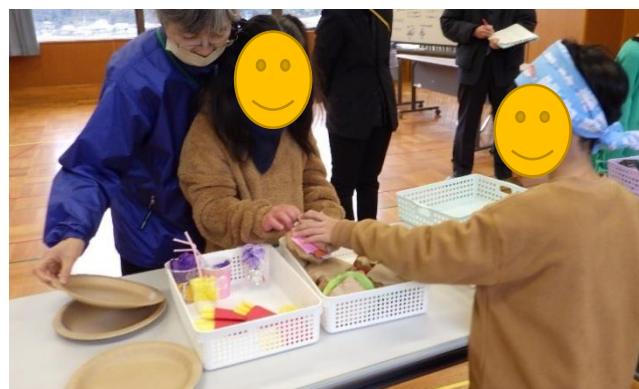
2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

小学部7組 遊びの指導 「きらスタ☆フードコート」 T1授業者 大槻 綾佳

児童生徒の実態	知的障害学級（3年生1名、4年4名、5年2名 B1、B2段階） ・どの児童も買い物経験や外食経験があるため、ある程度お店屋さんのイメージを持っている。 ・繰り返しお店屋さんごっこの活動をする中で、品物を渡したり挨拶したり計算したりすることができるようになってきた。		
本時の目標	・相手に聞こえる声の大きさと丁寧な言葉づかいで接客する。 ・本物の食べ物のように落としたりしないように相手に渡す。 ・正しくお金の計算をして、おつりを渡す。		
つきたい力	・買い物体験や接客体験を通して、「働く」ことに対するイメージを膨らませる。 ・自分のお店をもって接客することで達成感を味わい、他の教員に見てもらってほめてもらうことで自信につなげる。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 多様な手段で説明する	 知識・技能を習得する

○授業の様子



○成果

- ・繰り返し取り組む中でお店屋さんとしての接客やお客さんとしての買い物を楽しむことができた。
- ・相手に伝わる声で挨拶したり丁寧に渡したりすることができた。
- ・次回の予告として、参観日にフードコートをすることを伝えると次の活動への意欲を感じることができた。

○課題

- ・授業全体としての流れが把握しづらかったようなので、指示されなくても「自分たちで動ける」ことを

意識して授業の説明や授業の工夫を行いたい。

- ・今回は1人での活動だったため、協働する場面を設定した活動にも取り組んでいきたい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・フードコートというみんなの親しみがあるテーマで、楽しく活動していた。
- ・お店の準備がすごく多くて、商品だけでなく看板・グッズなどたくさん考えて作ってきたのが伝わった。
- ・片付けのことまで流れを説明することで見通しをもたせ、自分たちで行動する力を付けていく。さらに中高で積み重ねていくと就労へつながっていく。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・公開授業や研究授業を通して、改めて授業について考える機会となった。
- ・日頃の授業の悩みについて、全員がコメントを書いていく方式だったのでたくさんの意見がもらえた。
- ・体制上公開授業や研究授業を参観するのが難しかった。そのため、授業者としても参観者がいなかったり少なかったりして助言がもらえなかった。
- ・人数の少ない小学部の知的グループでの話し合いは、意見交流しやすかった。

4 次年度に向けて

- ・公開授業を動画撮影などして、グループ内で様子を伝え合えたら良かった。
- ・他のグループや他学部の授業も可能であれば動画撮影した物を見ることができれば嬉しい。
- ・来年度も小グループでの学部研修の方が話しやすい。
- ・教科の視点に重点をおくとなると、小学校等の学習指導要領も必要になる。

小学部 重度重複学級グループ 研究報告

1 研究の経過










<令和4年度>

- ・学習指導要領を使い、対象児童の「国語」「算数」「図工」「音楽」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

小学部 9.10組 生活単元学習 「わわごりサイクル工場」 T1授業者 八講 宏史

児童生徒の実態	重度重複・肢体不自由学級 (1年生2名、2年生5名 4年生1名 5年生1名 6年生1名) ・車椅子を使用している児童は7名、医療的ケアを必要とする児童は4名。 ・発達段階に幅がある(1歳前後から6.7歳まで) ・生育環境も様々で経験不足な児童が多い。		
本時の目標	・大きさの違いに気付いたり、大きさを分けてみようとしたりする意識や意欲を高める。 ・円の穴には通らないが長方形の穴には通る等2段階の検品に気付く。(発達段階の高い児童)		
つけたい力	・授業ごとに指定される条件に合うように、「分ける」ことで物事を分化していく力を付けたい。 ・単元の中で「分ける」ことを繰り返す中で、素材ごとに「分ける」利点に気づき、分別して収集する意識をもたせたい。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める  粘り強く取り組む  振り返って次へつなげる	 互いの考えを比較する  共に考えを創り上げる  協働して課題解決する	 知識・技能を習得する  自分の考えを形成する  新たなものを創り上げる

○授業の様子



3 成果と課題

○成果

☆教具の良さ

- ・身近なものであった
- ・(児童の実態から) 普段触れる機会の少ない物
- ・どこにでもたくさんある

☆環境面の良さ

- ・「工場」という設定
- ・子ども同士、活動が見える場の設定

○課題

- ・発達の幅が広いので、どこに焦点を当てるべきか難しかった。
- ・もう少し環境が整理されていてもよかった。
- ・マナー化しやすい領域であるため、年間を通しての単元の展開の方法や工夫

○事後研究会の記録(参観者からの感想含む)

- ・児童の実態に合った題材設定で児童がいきいきと活動できていた。
- ・たくさんの種類の素材があるメリットもあるが、整理されていても良かった。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・指導者同士が刺激し合い授業づくりの工夫をし、高め合うことができた。
- ・授業の楽しさ=学校の楽しさ
- ・他の授業とのつながり、積み重ね、児童の学びにつながった。

5 次年度に向けて(研究内容)

- ・教科と自立活動のすみ分け
- ・学習指導要領の活用の仕方
- ・教科指導について

中学部 自閉症グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和4年度>

- ・学習指導要領解説（国語、算数・数学、美術、音楽）のチェック
- ・悩み相談、アドバイス
- ・研究・公開授業の事前・事後研

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

中学部I組 生活単元学習 「まいづるの果てまでイッテQ」 T1授業者 梅井 美希

児童生徒の実態	自閉症学級（1・2・3年生 15名） ・自分の考えをまとめて伝えることが苦手である。 ・友達と一緒になら、挑戦できることが増える。		
本時の目標	・郵便ポストの数を調べる。 ・作った地図をみて、郵便局やポストの必要性を考える。 ・自分の考えを言葉にしたり、友達に自分の意見を伝えたりすることができる。		
つけたい力	・自分の考えをもち、友達に伝える力 ・地域の方や公共施設で働いている人と積極的に関わる力 ・ものごとの特性に気付く力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 協働して課題解決する	 自分の思いや考えと結び付ける

○授業の様子



○成果

- ・学級ごとに、チームワークが高まってきた。
- ・「なんで？」ということを自分で仮説を立てて考えようとしている。
- ・自分の知っていることを誰かに伝えたい気持ちが増えた。

○課題

- ・授業内容が盛りだくさんで、生徒がついていけない。
- ・生徒が司会進行することが難しい（サブの先生のフォローがあり成り立っていた）。
- ・人数も多く、発達の幅も広いため興味関心を絞って授業をすすめることが難しい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・本時の目標と子どもに提示するめあては共通にする（分かりやすく書く）。
- ・地図を読むためには、学校内の地図から学習をしていく方法があるのではないか。
- ・グループ学習では、友達同士で教え合う姿が見られた。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・少なからず、学習指導要領を意識して授業をしようとした（今までは、学習指導要領が分厚すぎて読むハードルが高かった）。
- ・目指す児童生徒の姿の『主体的・対話的で深い学び』のピクトグラムが分かりやすかった。参観に行っても、何を目標にしているかも分かったため。
- ・学習指導要領を読み込んで、通知表にもっと落とし込む余地があった。
⇒学習指導要領の読み方の決まりがあれば分かりやすい。
- ・学習指導要領の仕組みや役割が分かればもっと使い込んでいける。
- ・指導内容表を使用し、3年サイクルで年間指導計画を見直していきたい。
- ・生活単元学習は、教科横断的な視点で学習をしていきたい。

4 次年度に向けて

成果と課題、考察を参考に次年度に引き継ぐこと等（例：アセスメントをより丁寧に）をまとめる。

- ・自閉症の障害特性に応じた学習指導要領の読み方をしたい。
- ・定型発達の子どもの学習している順序を知り、支援学校で障害特性に応じて指導したい。
- ・教科の視点をもっと深めたい。
- ・グループ研で、同じ設定の授業（同じ単元、同じ生徒）をつくってみる。お互いにどんな視点で授業づくりをしたか、どんなところにポイントをもってきたかが分かる。
- ・体育では、ゲーム制のある運動をしたい。発達の幅があるので、ルールを少し変えていかないとゲームは難しい。

中学部 知的グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和4年度>

- ① 学習指導要領を用いて、協同的な学習で、「自分の考えを深め、表現・伝える力」がどのように教科や領域にあるのか学ぶ。
- ② 各学級で必要な力について話し合う。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

中学部6組 保健体育科 「アルティメット」 T1授業者 舟木 雄史

児童生徒の実態	自閉、知的、準ずる教育学級（3年生 2名 2年生 5名 1年生 4名） ・知的障害5名、自閉症5名、準ずる教育（※本授業には参加していない。）で構成された学級で授業に応じ、グループに分かれて学習している。 対象生徒の実態 ・運動に対する苦手意識がある。 ・何事にも前向きに取り組もうとするが、苦手なことに対してはネガティブな発言が見られる。 ・相手の話の内容よりも、自分の思いや伝えたいことを優先してしまう傾向がある。		
本時の目標	・空いている空間を見つける		
つけたい力	・話し合い活動で「空いている空間」を見つける力 ・苦手な運動にも取り組める力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 振り返って次へつなげる	 協働して課題解決する	 知識・技能を習得する

○授業の様子



○成果

生徒

- ・空いている空間を話し合って、見つけることができた。
- ・自分の役割を理解して、ゲームで実践できた。

指導者

- ・つけたい力と教科の目標を結び付けて活動を設定することができた。

○課題

- ・「空いている空間」を理解している生徒とそうでない生徒の差があった。
- ・動画を撮って成功パターンと失敗パターンを振り返られるとより分かりやすい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・事前研で頂いた意見から授業で活かした内容や参観に来られていない指導者にも授業の映像を見て頂いた。

参観者からの感想

- ・複雑なルールの中でもチームで協力していく姿が見られた。
- ・ボードなどで実際に動かす。そして、動いてみるなど自分たちから発信できる何かがあればよかった。
- ・全員がわかりやすいルールで、みんなが理解して意欲的に取り組めていて良かった。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

○成果

生徒

- ・友達と協力して、活動に取り組むことができた。
- ・自分で考えて、興味を持って取り組むことができた。

指導者

- ・アセスメントをしっかりと、つけたい力を考え授業作りをすることができた。
- ・学部が変わった時や個別の指導計画を立てる時に学習指導要領を参考にした。

○課題

生徒

- ・自分で考えたり、選択したりして行動できる力をつけたい。

指導者

- ・学習指導要領をもっと活用できる方法を考えていきたい。

4 次年度に向けて

成果と課題、考察を参考に次年度に引き継ぐこと等（例：アセスメントをより丁寧に）をまとめる。

- ・どのような目標をもち、作業学習に取り組ませたら、生徒にとってより良いのか。高等部との系統性も踏まえて全体で考えていくのはどうか。
- ・どのように授業を組み立てたら、主体的に取り組む力が育まれるか。

高等部 Aグループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>




- ・対象生徒を決め、学習指導要領の目標に照らして実態把握を行い、卒業後の生活を見据えた「つきたい力」を明確にした。
- ・「つきたい力」を授業の学習活動のねらいに関連付け、「つきたい力」を育むために学習活動の中で必要な支援の在り方を位置づけて授業づくりを行った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

高等部2組 生活単元学習「ジャックと豆の木」

T1 授業者 田中 俊大

児童生徒の実態	重度重複学級（2年生 2名） ・脳性麻痺、気管切開（喉頭分離）など日常的に医ケアが必要である。 ・全身に過度な筋緊張、左凸側弯がある。 ・音楽が好き。興味のあるものには、身体や顔を動かす、口を開閉させるなどで表出する。		
本時の目標	(1)登場人物とやりとりする中で、自分の気持ちを表情や動作で表すことができる。 (2)素材の感触（豆の木の葉っぱ、豆など）に気付くことができる。		
つきたい力	・外界の刺激を感じ取る力 ・自分の想いを表現する力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	興味や関心を高める  興味や関心を高める	思考を表現に置き換える  思考を表現に置き換える	知識・技能を習得する  知識・技能を習得する

○授業の様子



○成果

- ・担任間で生徒に対するアセスメント（得意な五感、表出手段等）ができたことで、子どもの表出につなげることができた。
- ・「まめのきぐんぐん」などオリジナルのテーマソングを作り、同じ場面を繰り返し学習したことで、次の活動が分かってできる様子が見られた。

○課題

- ・重度重複障害のある生徒に「できた感」を！「触れる→気付く→表出する→褒められる→褒められたことを感じる→できた」

- ・学習指導要領「解説」の活用について
教科の視点など、担任間での共通確認に生かせる。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・ぬいぐるみやスイッチなど、五感を刺激するための工夫がたくさんあった。場面転換、明暗など、視覚的にも工夫があった。
- ・五感を働かせたことへの、フィードバックが大切である。思考する時間（反応）を待つことが重要である。
- ・「子どもが褒められたことを感じる→できた」の部分が足りなかったように思う。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・全員が公開授業を行ったことで、普段の授業に対して担任間やグループで検討しやすくなった。
- ・分教室においては、普段知ってもらう機会が少ないため、どんなことをしているか伝える機会になった。
- ・学習指導要領に日々活用しようとする機会になって良かった。特に、解説を読むと、重度生徒に対しても活用できる面があると知ることができた。
- ・時期が夏休み明けすぐだったので新しい取り組みになってしまっただけで積み重ねが少なかったり、実施が文化祭前後だったので普段の授業よりも文化祭の練習という面が強くなったりした。

4 次年度に向けて

- ・公開授業の時期については、1学期・2学期の中旬～終わりにかけて実施にすれば、授業も検討を重ねられて安定すると思われる。
- ・重度重複障害のある生徒に対して、学習指導要領を活用することの意識付けができてきたので、より有効に活用できるための研修や研究が深められるとよい。

高等部 Bグループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>




- ・学習指導要領を使い、対象児童の「美術」「音楽」「国語」「数学」の段階や内容を確認した。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

高等部4組 数学科「スーパー北村へようこそ」

T1授業者 北村 賢作

児童生徒の実態	知的・自閉症混合学級（1年生3名 2年生2名 3年生2名） ・わからないときは、黙り込んだり周りを見て答えを合わせたりすることがある。 ・ゲーム的な活動や身近な題材、やり方に慣れてくると意欲的に取り組める。		
本時の目標	・商品の値段を比較して、安い物を選ぶことができる。		
つきたい力	・お金に関わる知識の習得 ・実際の生活場面（買い物）で生かせる力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 先哲の考え方を手掛かりとする	 知識・技能を活用する

○授業の様子



○成果

- ・買う物のテーマを毎時間変えて、今日は何を買うんだろうと生徒が期待して学習に取り組むことができた。
- ・位の数字を見て、値段の比較ができるようになった（どこを見て高い・安いを判断するかが分かるようになった）。
- ・ぴったりの金額を払えないときに繰り上げをして、少し大きい金額を払うことができた。

○課題

- ・数の大小を理解していない生徒へ教えるのが難しかった。
- ・練習したことを実際の場面で試せたらよかった。
- ・持っているお金で商品が買えるか買えないか判断する力を付けたい。

○事後研究会の記録

- ・間違っても、返品して買い直すのが実際の場面に近くてよかった。
- ・生徒たちが、楽しく学んでいるのがよかった。苦手意識をもたずに、楽しく学習できることで力になっていくのではないかな。
- ・実際の場面を想定して授業を設定するが、実際の場面になるとできないことも多い。実際にスーパーに買い物に行けると良かったかもしれない。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・内容を個に合わせて考えられた。
- ・参観に行ったり見てもらったりして、アイデアをもらえたことが良かった。
- ・タブレット端末での学習に生徒が意欲的だった。調べ学習などにもっと活用していきたい。
- ・考えを伝えたり、発表したりする場をたくさん設定することで、型があるとできるようになった。
- ・その反面、決まった言い方や使い方でないとき難しい場面もあった。友達同士のやりとりがパターン化していて深められない。
- ・日常に近い場面に移行したいが、ステップアップが難しい。
- ・学習指導要領を読んだが、授業づくりや目標に生かすことができなかった。

4 次年度に向けて

- ・指導内容表や学習指導要領を上手く活用して、授業や単元計画を考える。
- ・引き続き「生徒に合った伝え方、日常に近い場面設定」を想定して活動内容を検討する。
- ・やりとりを広げるために、様々な会話のパターンを教えていく。

高等部 Cグループ 研究報告

1 研究の経過

<令和4年度>




- ・指導要領で美術・音楽の内容を確認した。
- ・公開授業に向けて、各教科に対する悩みを出し合い、記入方式でアドバイスし合うことができた。

2 研究授業・公開授業の様子

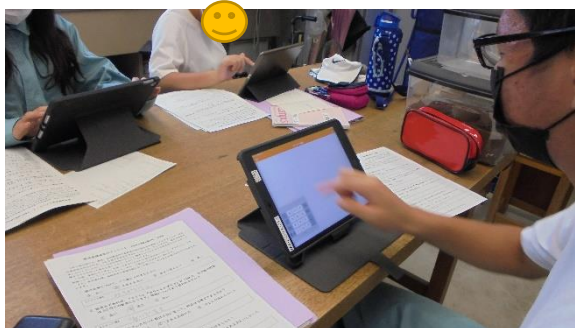
<令和4年度>

高等部Cグループ 単元名「夏野菜の苗についてのアンケート作業学習（農園芸）」

T1 授業者 大田 雄一郎

児童生徒の実態	高等部Cグループ（1年3名、2年2名、3年3名） ・積極的に行動できる生徒は少ないが、誰かが行動を始めるとその様子を見て何かしようと行動を始めた生徒に続くことはできる。		
本時の目標	・アンケートの集約を正確にすることができる。 ・どのように作業をすれば良いか、友達と相談して作業することができる。		
つけたい力	・自分の考えを伝えたり、友達の意見を聞いたりして作業する力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 多様な情報を収集する	 自分の考えを形成する

○授業の様子



○成果

- ・指導者から一定の支援を受けながらも、ほぼ生徒たちの力で集計を行うことができた。
- ・自分の仕事が終わったときに、周囲の友達の様子をうかがって、支援を申し出ることができた生徒が複数名いた。
- ・アプリ「Pages」での、グラフの作り方の基礎を知ることができた。

○課題

- ・友だち同士で教え合い、簡単な課題を生徒たちの力だけで最初から最後まで行えるような課題設定をし、自分たちの力でやりきる力と気持ちを育てていきたい。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・アンケート調査をただけではなく、入力・集約・確認という流れを生徒たちでできたところがよかった。
- ・個に応じた入力のサポート（フリック・50音表など）があったので、指導者を頼らずにできていた。

- ・発問の分かりやすさが大切である。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・授業の悩みに対するアドバイスを記入方法で行うことで、たくさんのアドバイスをもらうことができ、授業に生かした。
- ・研究授業の事後研からは、生徒が自分で分かって動けるような指導ができるように、意識することができた。また、生徒の思考する時間を大切にすることができた。
- ・iPadを資料まとめに生かすなどの活用ができた。
- ・卒業後に必要な力について話し合ったが、話し合っただけでその後の研究につながらなかった。
- ・教科学習などで、指導要領の活用が不十分で、目標に沿った指導ができないことがあった。
- ・指導内容表に沿った指導ができないことがあった。前年度に次年度の内容を決めているが、きちんと引き継いでいく。

4 次年度に向けて

- ・指導内容表の活用。
- ・教科にない社会や理科などの内容を、どんな授業で扱っていけるか考える。
- ・引き続き、「生徒自身が考えて動ける」指導を目指していく。
- ・授業の悩みに対するアドバイスを今年行ったように記入方法で行うのが良い。

高等部 職業自立グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和4年度>

- ・指導要領で美術・音楽の内容を確認した。
- ・職業自立コースでの生徒につけたい力を検討した。
- ・研究授業・公開授業に向けて、各教科に対する悩みを出し合い、アドバイスを基に授業作りを行った。

2 研究授業・公開授業の様子

<令和4年度>

高等部9・10組 美術科（各教科等名） 「コマ撮り動画制作」 T1授業者 中馬 律之

児童生徒の実態	高等部9組（1年生4名、2年生1名） ・自分の思いを言葉で表現することに課題がある。 ・困ったときに相談することに課題がある。 ・一斉指導の中で理解することが難しい場面がある。		
本時の目標	友達と相談しながら動画制作を進める。		
つけたい力	・相談して解決する力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 振り返って次へつなげる	 協働して課題解決する	 新たなものを創り上げる

○授業の様子



○成果

- ・生徒同士で効果音やアフレコ、質問のやり方など相談して決定していくことができた。
- ・苦手なことに対しても向き合う姿勢が題材を通して身に付いていた。

○課題

- ・生徒自らが時間管理できる工夫
- ・相談しにくい内容（本当の困りごと）など、多様な困難を乗り越えていく力を付けていく。

○事後研究会の記録（参観者からの感想含む）

- ・生徒たちが主体的に動いていて、相談しながら制作を進めることができていた。
- ・職業自立コース以外のグループでもできるのではないかと可能性を感じる。

3 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・研究仮説を基にした各授業や普段の関わりから、生徒たちが意見を出しやすい雰囲気や「主体は生徒」という認識が作られ、伝えることに課題のある生徒もよく発言するようになるなど、職業自立コースが

設定した「協働的な学習で、自分の考えを深め、表現・伝える力」は、おおむね達成できていた。

- ・グループとしての今年度の課題「つけたい力」は学習指導要領や教科の視点とは違うものであるということや、「つけたい力」「学習指導要領」「ICT」と研究主題に3つの要素があることもあり、難しさや混乱が生じた。

4 次年度に向けて

- ・作業学習における教科の視点を明らかにして、実践していく。その結果が作業学習にどのように反映されるのか、その効果を研究したい。
- ・職業自立で考えたつけたい力が学習指導要領のどの教科のどの項目に当てはまるのかを検討する。
(例：「相談する力」につながる力)

令和5年度

小学部 自閉グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和5年度>

- ・単元のつながりの図を書き、これまでしてきた・これからする予定の『合わせた指導』について、各学級で各教科・領域のつながりを整理。
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

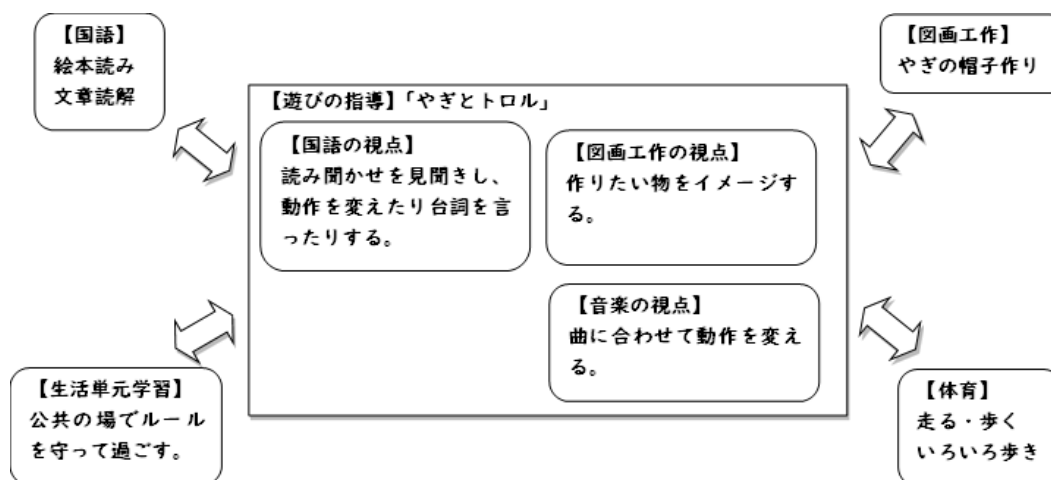
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

小学部3組 遊びの指導 「やぎとトロル」 T1授業者 福井 由美

単元名	「やぎとトロル」お話遊び		
生徒の実態	小学部 2年生2名、3年生4名 (2年生1名欠席) ・個別で遊ぶことが多かったが、1学期後半より友達と関わる姿が見られるようになった。		
本時の目標	・友達との話し合いで、自分の意見を言ったり、トロルとやりとりしたりすることができる。(思考・判断・表現)		
本授業でつきたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なやりとりができる。 ・必要に応じて援助を求めることができる。 ・誘ったり誘いに応じたりすることができる ・気持ちを切り替えて活動に向かうことができる。 		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 見通しを持つ	 共に考えを創り上げる	 興味や関心を高める

○教科の視点



○学部研の様子



- ・対象児童を決め、つきたい力を各学級で話し合う。
- ・単元のつながりの図を基に、『合わせた指導』について、各教科・領域のつながりを整理。
- ・公開授業・研究授業の動画を示しながら、授業について指導者と学級の指導者が振り返りを伝えた。ふりかえりを基に、授業内容や手立て等について意見を出し合い、感想を伝えた。

○授業の様子



○成果

- ・お話の見通しをもつことができるようになり、次の展開をイメージする力がついた。
- ・登場人物（やぎ）になりきって、トロルとの会話を自分で考えてできるようになった。
- ・自分たちで話し合いをして、順番を決めることができるようになった。
- ・自分たちで話し合いをして、遊びを決めることができるようになった。
- ・昨年度の研究で良かった流れを生かして授業展開ができた。（エプロンシアターでお話の見通しをつけ、繰り返しのやり取りをする）
- ・休み時間に新しいルールの遊び（トロル鬼ごっこ）ができ、他学級の児童とも共有して遊ぶことができた。

○課題

- ・困った時に助けを求める力をつけるための手立てが必要であった。

3 ICT 活用についての成果・課題

- ・絵本や手本をテレビに映して提示することで、注視しやすくなった。
- ・ダンスやエプロンシアターで曲を使ったことにより、見通しがつきやすくなったり、興味関心を引き出しやすくなったりした。
- ・選択肢をテレビに提示することで、全員がやりたいゲームを選択することができた。
- ・指導者の意図が伝わっていないときに、すぐに説明箇所まで戻ることができた。
- ・振り返りの動画があったことで、自分のやり取りを見返すことができた。
- ・子どもの反応を仮定しながらスライドを作成する必要がある。
- ・活動している様子をテレビに映すことで、児童が自分で学習の様子を確認することができる。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・五感に働きかけたり、児童自身が夢中になって遊び込める活動を考えたりしたことで、日常生活の中で、授業で取り組んだ遊びをする様子が見られた。
- ・各教科や領域の視点を整理したことで、ねらいがぶれず、指導者間で共有することができた。
- ・各教科や領域のつながりを基に、授業を考えることができた。
- ・ICTの活用方法を広げることが難しかった。
- ・公開授業・研究授業の参観にほとんどの指導者が行くことができず、残念だった。
- ・研究授業において、グループでの話し合いが、指導案が形になっている状態からであるため意見が出しづらかった。

5 次年度に向けて

- ・研究授業において、教科・領域を決める段階からグループで話し合い、考えていきたい。
- ・各教科や領域のつながりを踏まえて、指導者間で話し合い、授業内容を決めていきたい。

小学部 知的グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和5年度>

- ・対象児を決め、つきたい力を学級で相談。 ・そのつきたい力を発表しながら実態交流。
- ・単元のつながりの図をかきながら、学級ごとに公開授業・研究授業の相談。
- ・どのような授業にする予定なのか交流。

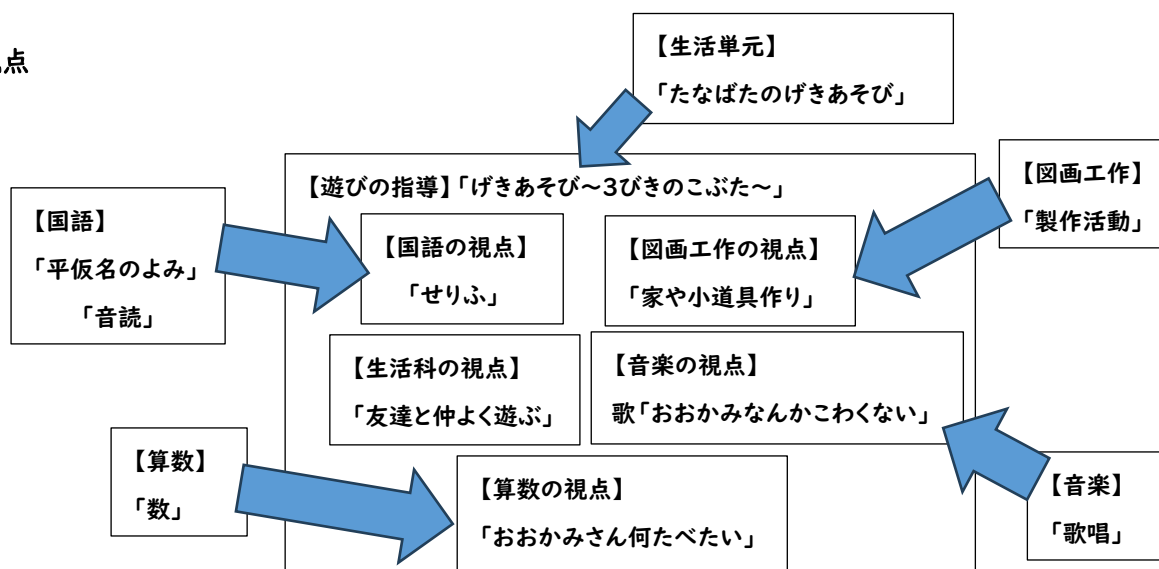
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

小学部9組 遊びの指導 「3びきのこぶた」 T1授業者 大槻 綾佳

児童生徒の実態	知的障害学級（6年生5名、5年2名、B1・B2・C段階） ・伝えたい気持ちはあってもどう伝えていけば良いのか分からない部分があったり、改まって話すと緊張してしまったりする児童もいる。素直でやる気のある児童が多い。		
本時の目標	・なりたい役を選び、決まったやりとりができる。（思考・判断・表現） ・友達と関わりながら、やりとりをしようとしている。（主体性）		
つきたい力	・自分の気持ちを伝えたり、相手の気持ちを考えたりする。 ・必要に応じて援助を求める。 ・できることを増やし、自信をもっていろいろな活動に取り組む。 ・自分で考えて、決めたり選んだりする。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 協働して課題解決する	 知識・技能を習得する

○教科の視点



○学部研の様子

- ・「公開・研究授業の振り返り」
動画で見て欲しい部分を見せながら、授業について授業者とその学級の指導者で振り返りを伝えた。
- ・「ミニ感想文」
それぞれ授業者にあてて感想などを小さな紙に書いて渡した。



○授業の様子



○成果

- ・おおかみになりきって、口調を変えてせりふを言うことができた。
- ・話の流れをよく分かって、こぶた役とやりとりをすることができた。
- ・振り返りのときには、「こぶたがかわいかった。」と友達の良さに気付くことができた。
- ・対象児童ではないが、1回目の劇遊びに比べて「いやだ」とせりふを言えた児童やレンガの家をパタパタされて「涼しい」とアドリブも言う児童もいた。
- ・それぞれの役の友達同士が仲間のように仲よく活動ができた。

○課題

- ・おおかみのせりふで「こひつじ」を「こいぬ」にするなど、同じ役同士で相談してせりふを決める力。

3 ICT活用についての成果・課題

- ・歌「おおかみなんかこわくない」を使うことで、言葉が上手く出ない児童でも音楽にのって足踏みしたり身体を揺らしたりして楽しそうに表現していた。
- ・振り返り前にテレビで劇を見ながら、それぞれの良い所をみんなに伝えて共有できて良かった。児童自身も自分の姿を見たり友達の姿を見たりすると、様々なことに気付くことができたと思った。
- ・課題としては、教室で使っているテレビだったのですぐにつながるかと思ったが、上手くつながらずに困ったので、時間がない中だったが事前につないでみておけば良かった。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・げきあそびをする中で、思ってもいない楽しみ方ができていて、役になりきってできることで発語につながり、得るものがあったと思う。
- ・動画を振り返りで使うことで、児童自身も振り返ることがしやすく指導者もほめやすかった。
- ・学部研での交流を通して、単元の工夫に取り入れるようなことができた。
- ・公開授業に参観してもらう体制がなかなか整わなかった。

5 次年度に向けて

- ・各学級でどんな授業をしているのか映像を撮ってきてもらって、交流できたら良いのでは。
- ・どの学級も「ボールあそび」や「げきあそび」に決めて公開・研究授業を行っても良い。
- ・公開・研究授業ではなく、「こんなのやってるよ」「こんなのやって、こんなことできたよ」などのフレンドリーな交流をした方が良いのではないかな。
- ・ICT活用については交流することでできることが増えると思う。

小学部 重度重複グループ 研究報告

1 研究の経過






<令和5年度>

- ・「遊びの指導」の教科の視点を全員で整理した。
- ・授業づくりのアイデアを出し合った。
- ・研究授業の事前研・事後研を行った。

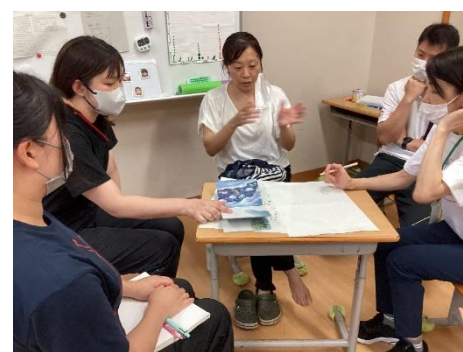
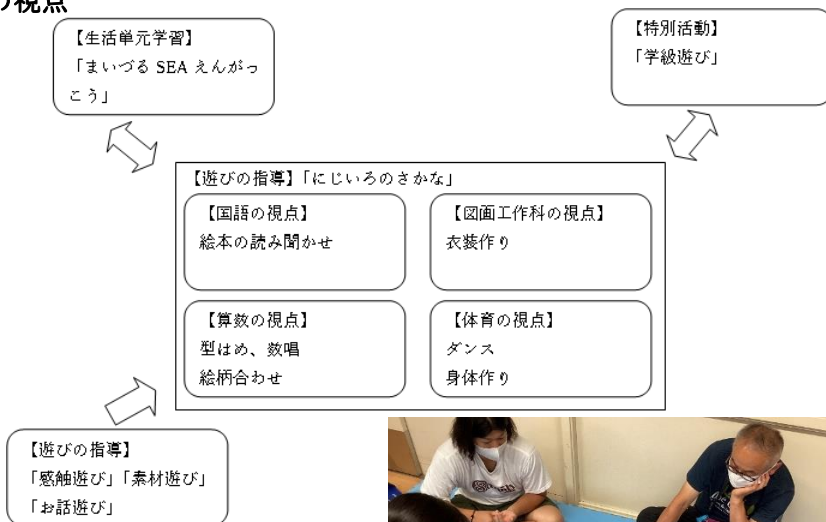
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

小学部 10・11・12組 遊びの指導 「にじいろのさかな」 T1 授業者 大東 奈央 先生

児童生徒の実態	重度重複学級（1年生1名、2年生1名、3年生3名、5年生1名、6年生1名 B1・B2段階） ・絵本やお話の世界への興味関心は高い。 ・言葉でのやりとりができる。 ・友達を自分から誘うことは少なく、関わりはやや一方的である。		
本時の目標	・役柄に合った台詞を大きな声で言うことができる。 ・友達を誘ったり、友達からの関わりを受け入れたりして遊ぶことができる。		
つきたい力	・友達を誘いかけて一緒に遊ぶことができる力 ・設定に合わせて工夫したり、思考したりする力 ・何事にも自信をもって取り組む力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 思考を表現に置き換える  協働して課題解決する	 知識・技能を活用する  自分の思いや考えと結び付ける

○教科の視点



○学部研の様子

- ・題材の絵本の読み聞かせ
- ・活動のアイデアを出し合う
- ・教科の視点を整理



○授業の様子



○成果

- ・役割を理解して活動できた。
- ・見通しをもつことで、自信をもって取り組めた。
- ・教科のねらいを個々に絞って入れ込むことができた。
- ・友達を誘い、受け入れてもらう経験を積むことで、休み時間にも友達同士の関わりが増えた。

○課題

- ・般化を目指したねらい、活動の設定
- ・やりたい気持ちは大いにあるが、肢体不自由がゆえにできない葛藤がある児童の達成感を得るための工夫、支援

3 ICT活用についての成果・課題

- デジタル絵本（大きなスクリーンと効果音による迫力とイメージの鮮明さ）を用いることにより、お話の世界に引き込むことができた。
- 児童を飽きさせない工夫のひとつになった。
- 一方で、“絵本らしさ”は薄れてしまう。
- 音楽や効果音に気をとられてしまうこともある。
- ハイブリット型デジタル絵本、良かった！（音声はその場にいる指導者）

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- みんなで「遊びの指導」の教科の視点を整理したことでイメージが付き、日々の指導に生かすことができた。
- 学習グループを発達段階別で2つに分けたのが良かった。
- 研究授業メインで研究を進めたこともあって、公開授業は事後研のみとなった。
- 学級混合のグループ分けをしたことで、他学級の児童への指導をどこまでするのか、ねらいがぶれてしまいそうという悩みが出てきた。そのようなことを学部研で話題にできると良かった。

5 次年度に向けて

- ・3つくらいの教科を挙げて、整理しながら授業のアイデアを出し合いたい。
- ・研究授業という形をとらずに、日々の授業を研究していくのはどうか。
- ・よりよい学習集団の検討をしていきたい。

中学部 自閉グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和5年度>

- ・グループの生徒の実態差を考慮し、概ね中間層の生徒を2名ピックアップし、つきたい力を考えた。
- ・合わせた指導における教科の視点を明確にし、単元構想からグループ全体で話し合い、授業計画できた。
- ・京特研授業改善部会で得たフィードバックも含めて授業改善の検討やつきたい力について考えた。

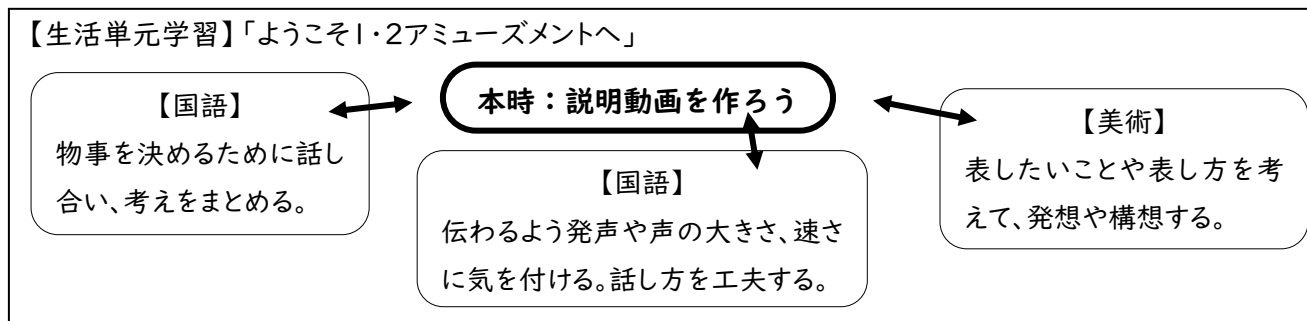
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

中学部1・2組 生活単元学習「ようこそ1・2アミューズメントへ!」 T1授業者 大下 雄平

児童生徒の実態	中学部自閉症学級（2年生2名、3年生4名、B1・B2段階） ・わかる範囲、経験などから自分の意見をもったり、選んだりできる。 ・得意なことは積極的に表現できる反面、初めてのことへの抵抗感が強い。 ・集団で消極的になる生徒と積極的に行動する生徒との二分である。		
本時の目標	・伝わりやすい動画にするために、適切な話し方や表現を考えたり、選んだりすることができる。 【思考力・判断力・表現力】 ・意見や考えを積極的に伝えようとしたり、出た意見をまとめたりしようとしている。 【主体的に学習に取り組む態度】		
つきたい力	生徒A：得意なことを生かして自信をもって活動したり、自分の目標に向かって努力したりする。 生徒B：相手のことを考えてコミュニケーションをとる。 共通：友達と協力しながら集団活動に積極的に取り組む。 「聞く・話す」「読む・書く」などの力を伸ばし、情報を読み取ったり、気持ちを伝え合ったりする。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 振り返って次へつなげる	 多様な手段で説明する	 自分の思いや考えと結び付ける

○教科の視点



○学部研の様子

- ・対象生徒を中心にグループでつきたい力を検討した。
- ・本単元で取り扱う ICT 機器や作成する物等について指導者が実際に体験し、授業展開につなげた。
- ・ねらいや目標の達成のために中間評価を行いながら単元を見直しつつ、授業改善を行った。



○授業の様子



○成果

- ・ペア活動にすることで、一人ではなかなか難しいことにも取り組んでいた。
- ・授業や集団活動への積極性が増し、周囲の様子を見て自分に取り入れられるようになり始めている。
- ・友達を意識し、相手のことを考えようしたり、指摘したりする姿が見られた。

○課題

- ・聞いてもらって答えることで発信することが中心になる生徒もいたため、今後は自ら発信できると良い。
- ・友達の意見と自分の意見を比較することで、自分の考えを確かにしたり、新しい考えを見つけたりする。
- ・迷いやわからないという思いが強くなったときにも落ち着いて対処できると良い。

3 ICT活用についての成果・課題

- ・すぐに見返したり、比較したりして確認することができた。動画の気になるところをチェックでき、やり直しも何度もできるため、生徒自身で考えて改善につなげることができた。さらに、最終完成版となる動画を選ぶ際には、いくつか撮り直したものの中から選べるため、より良い物の選択にもつながった。
- ・文具としてのICT活用が進んできた。
- ・ICT機器の習熟度によって使う生徒に偏りが見られることがあった。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・つけたい力としてねらったことにアプローチできた。そのために、生徒の興味関心に応じて教材選択や手法を変化させることができた。
- ・学習指導要領を用いながら、教科の視点を明確に入れることができた。
- ・実態差や習熟度の差など様々な幅が広く、グループ全体を見るとアプローチが不十分なことがあった。したがって、グループ内でのつけたい力の整理には及ばなかった。
- ・一括りにつけたい力といっても、何を指すのか、様々な角度や立場から見たつけたい力にさがあることなどから、整理することに難航した。

5 次年度に向けて

- ・学習指導要領を活用し、取り組むことの明確化と指導者間の共有を行う。
- ・つけたい力のあり方を考える。
- ・生きる力を高めるためにはどうすべきか。教科学習と関連させながら考える。

中学部 知的グループ 研究報告

1 研究の経過




<令和5年度>

- ・グループごとに生徒の実態にあったつきたい力を検討し、そこに向けた授業づくりを話し合った。
- ・合わせた指導における教科との繋がりを考え、教科の視点がぶれないように指導支援を行っていく授業の流れを検討した。
- ・グループを超えた意見交流と、今年度を踏まえて次年度どのように研究を行っていきたいか構想を練った。

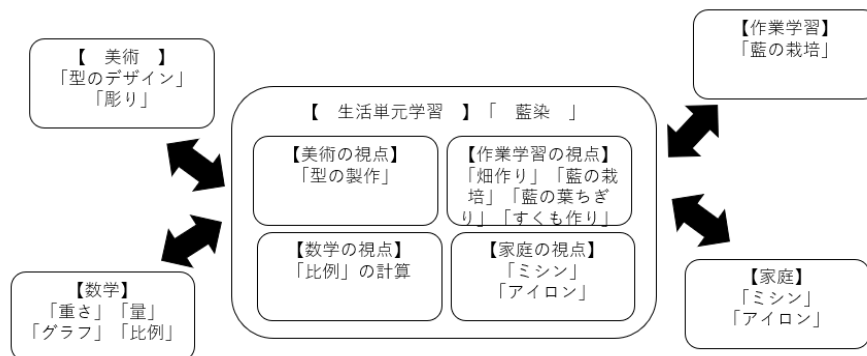
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

中学部6組 生活単元学習 「藍染 型染」 T1授業者 平井 慎一

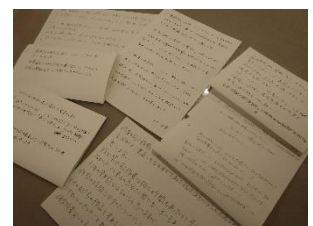
生徒の実態	知的障害・自閉症混合学級（1年生4名、2年3名、3年4名 B2、C段階） ・友達が好きで一緒に活動したい思いが強い生徒が多い。自閉症の生徒であっても、友達から誘われると嬉しそうにしている様子がある。 ・対象生徒は、絵を描いたり物を作ったり創造することが得意であり、意欲もあるが、少し難しそうなことや初めてのことは不安感が大きくなり、指導者や友達の支えが必要となる。 ・好きな活動は長時間でも取り組むことができるが、単純作業でも諦めず、粘り強く取り組むことに課題のある集団である。		
本時の目標	・長時間、集中を要する作業をしっかりと集中してやりきることができる。 ・ペアの友達と協力しながら、藍液を床に落とさないようにできる。		
つきたい力	・友達と協力しながら、集団活動に積極的に取り組む力。 ・必要な援助を求めたり、相談したりする力		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 粘り強く取り組む	 協働して課題解決する	 知識・技能を習得する

○教科の視点



○学部研の様子

- ・各グループにおけるつきたい力の検討。
- ・研究授業の事前研や事後研を行い、学習の様子を写真や動画で紹介して、よりよい授業に向けた意見交流。
- ・授業のねらいの検討や生徒に合わせた指導支援の在り方について検討、共有。



○授業の様子



○成果

- ・ペア学習にすることで、友達を意識して取り組むことができた。
- ・繰り返し取り組むことで作業工程を覚え、友達と一緒に、工程になかった片付けまで気付いて行うことができた生徒もいた。
- ・完成後の写真撮影で、友達の成果を喜び、記録に残そうとする言動が見られた。

○課題

- ・作業工程を覚えて見通しをもちすぎてしまうと飽きてしまい、根気強く取り組むことが難しくなった。作業の進度に差が出る時には、別課題を用意しておく必要がある。
- ・単純作業でも粘り強く取り組む忍耐力がまだついていない生徒に関しては、好きな活動を長時間取り組み、まずは意欲を育てるところが必要。自分の役割に責任をもって取り組めるよう、分担して行う方法を検討しても良いのでは、という意見も出た。

3 ICT活用についての成果・課題

- ・オンライン（リモート）を活用して、生徒が落ち着ける場を保障しながら同じ活動を行うことができた。
- ・携帯電話やタブレット等を触る機会が多い生徒がたくさんいるため、描く、構成するなどの大きな負担なく自由に表現することができ、表現の幅が広がった。
- ・手元の作業を大型テレビに映し出すことで、全体で作業の様子が共有できたが、生徒によっては遠近感が掴みにくく、実際に目の前で示す方が良い場合もあった。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・つけたい力を出すことで、授業を作る時に軸とすることができた。
- ・生徒にあった活動を設定することで自信につながった。
- ・学習指導要領は、目標設定の際には活用できたが、その後の効果的な活用は難しかった。
- ・つけたい力がたくさんあるため、一つに絞り切れなかった。

5 次年度に向けて

- ・学習指導要領を効果的に活用していく。
- ・協力しながら活動する場面を設定し、活動を通してお互いを認め合える指導を検討していく。
- ・全ての活動で教科・領域等のつながりをもった指導を意識して取り組んでいく。

高等部 Aグループ 研究報告

1 研究の経過

<令和5年度>

- 重度重複障害のある生徒に「できた感」を育む授業づくりの検討。
 - ・繰り返し取り組むことで、分かってできる力
 - ・人と関われる力
 - ・ICT活用

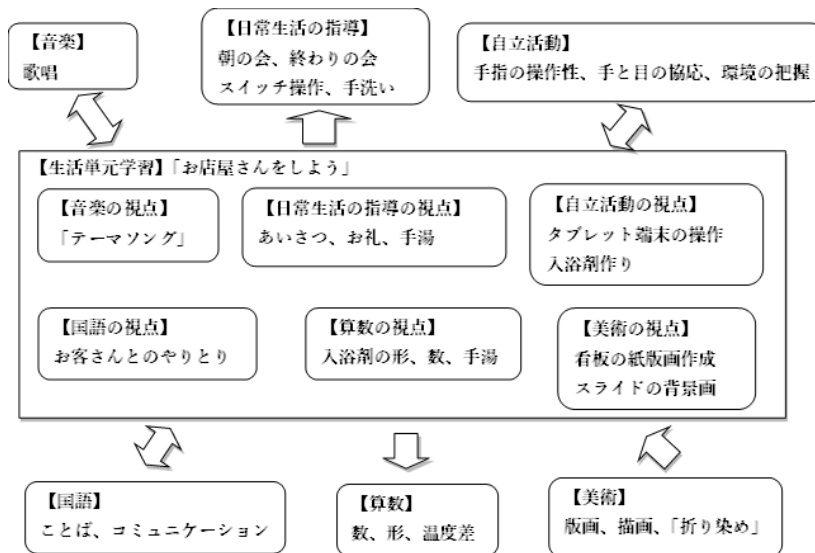
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

○高等部1組 生活単元学習「お店屋さんをしよう」 T1授業者 吉武 昌子

児童生徒の実態	重度重複学級(1年3名、2年2名、3年1名) ・医療的ケア対象生徒が3名(内1名は呼吸器をつけており、脈拍など常時モニターでの観察を含め体調管理が重要。)発作を起こしやすい生徒もあり、配慮が必要。 ・学習内容はよく理解しているが、重度の肢体障害や麻痺のためにやりたい気持ちはあっても、腕や指が思うように動かない生徒もいる。半面、学習内容の理解が難しく授業に集中しにくい生徒もいる。		
本時の目標	・お客さんの顔を見て、声を出してやり取りすることができる。 ・1本指を意識してタップし、スライドを進めることができる。		
つきたい力	・繰り返すことで分かってできる力。 ・自分で作った入浴剤を自信をもってプレゼンし、人に喜んでもらい達成感を味わう。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	見通しを持つ	思考を表現に置き換える	知識・技能を習得する

○教科の視点



○学部研の様子

- ・つきたい力・対象生徒、ICT活用について
- ・研究授業、公開授業に向けて
- ・研究授業事前研
 - 指導案(原案)読み合わせ、対象生徒の確認、つきたい力(6本授業でつきたい力)、表を使った教科の視点の整理(9単元のつながり)
- ・研究授業事後研
 - 振り返りシートをもとに振り返り、成果を中心に意見交流

○授業の様子



○成果

- ・指1本でのタップを意識し、自ら指を伸ばしてタップすることができた。(KS)
- ・お客さんとの対応が楽しくて、たくさん声を出してやり取りすることができた。(KS)
- ・タブレット端末の画面に注目したり、画面を確認してスイッチを押したりすることができるようになった。
- ・お客さんに笑顔を見せてやり取りするなど、人と関わる力が広がってきた。

○課題

- ・KS は、相手によって途中で遊びが入り入浴剤を渡すことができなかつたこともあった。いつでも誰にでも渡せるように、どんな場面でも持っている力を発揮できるように指導していきたい。
- ・タブレット端末を使用してのやり取りが難しい生徒もいる。繰り返し取り組むことで、見通しをもてるようにしたい。
- ・2人ペアで順番にお客さんに対応したが、生徒によっては待ち時間なくより多くのお客さんに対応できるように工夫していきたい。

3 ICT 活用についての成果・課題

- ・アイビスペイントは指で触れるだけで絵が描けるので生徒も興味をもって取り組み、タブレット端末に触れることに慣れた。
- ・Key note を効果的に活用することで、コミュニケーションの幅が広がった。
- ・家庭でボイスメモを使用して録音してもらった生徒の音声を、スライドのナレーションとして使用した。(学校では大きな声で話さない)
- ・入浴剤の製作中の写真を見てもらおうとうれしそうであった。また写真を自分で選ぶことができた生徒もあり、自信をもって入浴剤を紹介することができていた。
- ・アイビスペイントで描いた絵をスライドの背景に使用した。
- ・会場に、お店屋さん開店までの様々な準備の写真を TV で見ってもらうことで、単元としての理解が深まったと共に、生徒の頑張りも見ってもらうことができた。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

<成果>

- ・繰り返し取り組む授業の中で、経験を積み重ねながら、分かってできる力や人と関わる力が、少しずつだが着実に育まれていくことを改めて実感することができた。
- ・教科の視点の整理により、教科の視点でどのようなことを学べばよいのかが分かった。
- ・重度重複障害のある生徒の実態に応じたICT機器・アプリの活用により、つけたい力により迫ることができ、今後の可能性の広がりを認識することができた。
- ・学習指導要領の活用は、自活の先生から助言をいただき深めることができた。

<課題>

- ・今年度は、販売活動を通じて担任以外の多くの人と関わる授業であった。他の授業でも、人と関わる力を育ていくための学習活動の展開を、どのように工夫しながら設定していけるか。
- ・気持ちはあっても、肢体障害ゆえの機器操作の難しさ。

5 次年度に向けて

- ・五感と外界との往還は引き続き基本ベースとして大切にしていく。
- ・人とやりとりすることを通して育むべき力を明確にした授業づくり。
- ・ねらいや目標に応じたICT機器・アプリの活用の仕方。
- ・教科との関連や学習指導要領の活用を念頭に置いた授業づくり。

高等部 3・4・5組 研究報告

1 研究の経過




<令和5年度>

- ・「伝える力」をテーマに授業
- ・公開授業や研究授業に向けて、授業の題材や活動内容に助言をし合った。

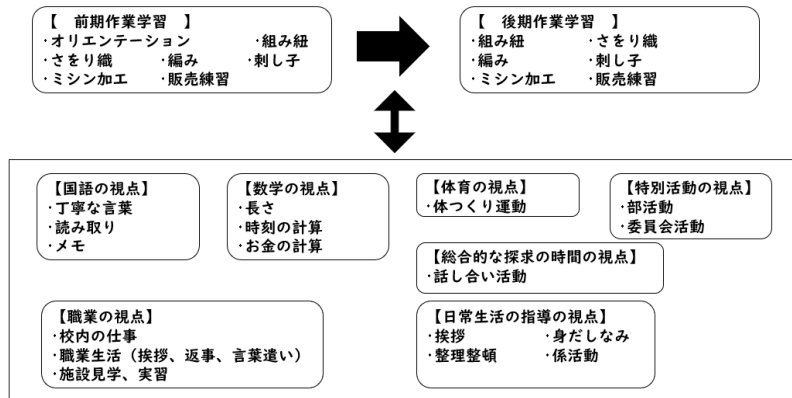
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

高等部4・5組 作業学習 工芸 「受注・製品仕上げ・納品」 T1授業者 辻田 和嵯

児童生徒の実態	4・5組 工芸班（1年生2名、2年2名、3年2名 B1・B2段階） ・作業内容の理解ができると、集中して作業ができる。 ・一斉指示での行動や継続しての作業が難しい生徒が半数。 ・不安に思うことや困ったことを相談することが課題。		
本時の目標	・注文書を活用し作業することができる。 ・自分からコミュニケーションを取ろうとしている。		
つけたい力	・仕事内容や指示を理解して正確に作業する。 ・受注内容を正確にメモし、それを活用する。 ・分からないときに自分から指導者に相談や報告をする。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 興味や関心を高める	 多様な情報を収集する	 知識や技能を概念化する

○教科の視点



○学部研の様子



- ・大型テレビを中心に円形に机を配置。
- ・研究授業の様子を観ながら、意見交流をした。

○授業の様子



○成果

- ・質問されたことに対して、自分で答えを考えて伝えようとする事ができた。
- ・会話の中で、「わからない」で終わるのではなく、「えっと」など、言葉を繋いでやりとりを続けようとする姿がみられるようになった。
- ・国語等でも取り入れている、「メモ」をとり、見ながら活動する、を実践することができた。

○課題

- ・作業学習の成果が見られるのは、販売会。一回の授業の中で、自分が製作したものをお客様に渡し、即時評価をもらう経験はとても大切。このような活動を定期的に取り入れていくことが課題。
- ・定型的なやり取りになりがち。指導者も含めて、柔軟に対応する力を付けていくことが課題。

3 ICT活用についての成果・課題

○音楽や美術的な内容では取り入れやすかった。表現の幅が広がった。

○作業学習に取り入れることは難しかった。

○タブレットを使用することで、丁寧さに欠ける面も出てくる。授業の中で、どの場面でどのように取り入れるか、見極めることが課題。

○高等部生には情報共有できるアプリが少ない。そのため、授業内で一斉に情報を共有することができない。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

○日常生活の指導はじめ、生活全般で指導していくことで、「伝える力」が付いてきた。

会話のキャッチボールが増えた。

○「聞き取って伝える力」について、課題が見えてきた。

<生徒>

- ・人の話を聞く、正確に聞き取る。
- ・理解する、理解して伝える。

<指導者>

- ・どのように伝えるか。どのように理解させるか。

5 次年度に向けて

- ・職業科の内容整理、検討をすすめる。
→次年度は学年別実施予定。

高等部 Cグループ 研究報告

1 研究の経過




<令和5年度>

- ・「生徒同士で考えて解決する」機会を授業の中に取り入れることを念頭に授業研究をした。
- ・研究授業の事前研では、作業学習の中での教科の視点について話し合った。事後研では、それぞれの先生方の考えを出し合え、生徒の実態に合った作業学習について考えることができた。

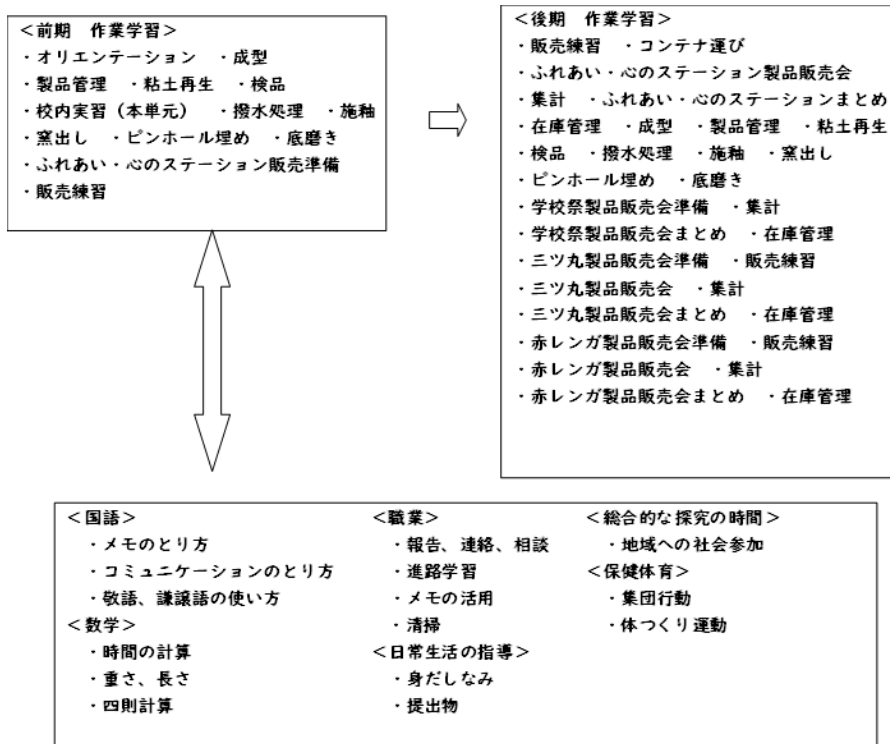
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

高等部Cグループ 作業学習 「三ツ丸販売会に向けた出荷準備」 T1授業者 倉橋 諭史

児童生徒の実態	陶芸班（1年生2名、2年4名、3年3名）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・指示待ちで、臨機応変な対応が難しい。 ・困ったことがあっても自分から相談できない。 ・周りを見て状況を判断することが難しい。 		
本時の目標	<ul style="list-style-type: none"> ・決められた手順通りに作業することができる。（知識・技能） ・積極的にペアや指導者に相談しながら作業しようとしている。（主体性） 		
つきたい力	<ul style="list-style-type: none"> ・仕事内容や指示を理解して正確に作業する。 ・ペアでコミュニケーションをとりながら協力して作業する。 ・時間に見通しをもって作業する。 ・わからない時に自分から指導者に相談や報告をする。 		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 見通しを持つ	 知識や技能を概念化する	 協働して課題解決する

○教科の視点



○学部研の様子

- ・グループ単位で少人数だったので、意見が出しやすい雰囲気だった。
- ・特に研究授業の事後研で活発な意見を出し合い、その後の指導に生かすことができた。

○授業の様子



○成果

- ・手順表を見ながら手順通りに作業することができた。
- ・ペアでお互いに指示を出し合い、役割分担をして作業ができた。
- ・作業完了後、自分のものと比較しながらお互いに見直しや確認ができた。
- ・必要なタイミングで指導者に報告や相談ができた。

○課題

- ・「協力する」とはどうすることが分からない生徒が多いので、一人一人が与えられた仕事を完了させる力を付けてからでもよい。
- ・不安や自信のなさから自分の思いを発信できず、友達を頼ってしまう生徒がいる。間違っても何度でも質問し、理解できるまであきらめない姿勢。
- ・自己理解を促し、自分自身の能力を理解した上で時間に見通しをもって作業する力。

3 ICT活用についての成果・課題

- ・keynoteで作った手順表を見て、生徒たちだけで作業することができた。
- ・指導者が準備したものを使って学習しているが、社会に出た際には仕事の用途や自分の目的に応じて適切なアプリを選択活用できる力が求められている。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- ・対教師ではなく「生徒同士で考えて解決する」機会を授業の中に取り入れることが増えてきた。(初めから考えるのは難しいので、その前に内容を十分理解させるような時間が必要だが)
- ・研究授業の事後研では、それぞれの先生方の考えを出し合い、生徒の実態に合った作業学習について考えることができた。
- ・生徒の実態の幅が広いので、「思考する時間を設定した授業づくり」と言っても一部の生徒の意見だけになってしまいがちで難しかった。
- ・研究授業の事前研などで、教科のどんな内容が指導できるか検討できたが、指導内容表の内容の検討までには至らなかった。

5 次年度に向けて

- ・繰り返しの途中で段取りを自分で付けていけるような授業づくり。
- ・ペア、グループワークを行うときの環境づくり。
- ・生徒が興味をもって意欲的に取り組めるような楽しい授業。

高等部 職業自立コース 研究報告

1 研究の経過




<令和5年度>

- ・グループの作業学習の課題を分析し、各教科と連携させる。
- ・ICTの効果的な使用について研修を行う。

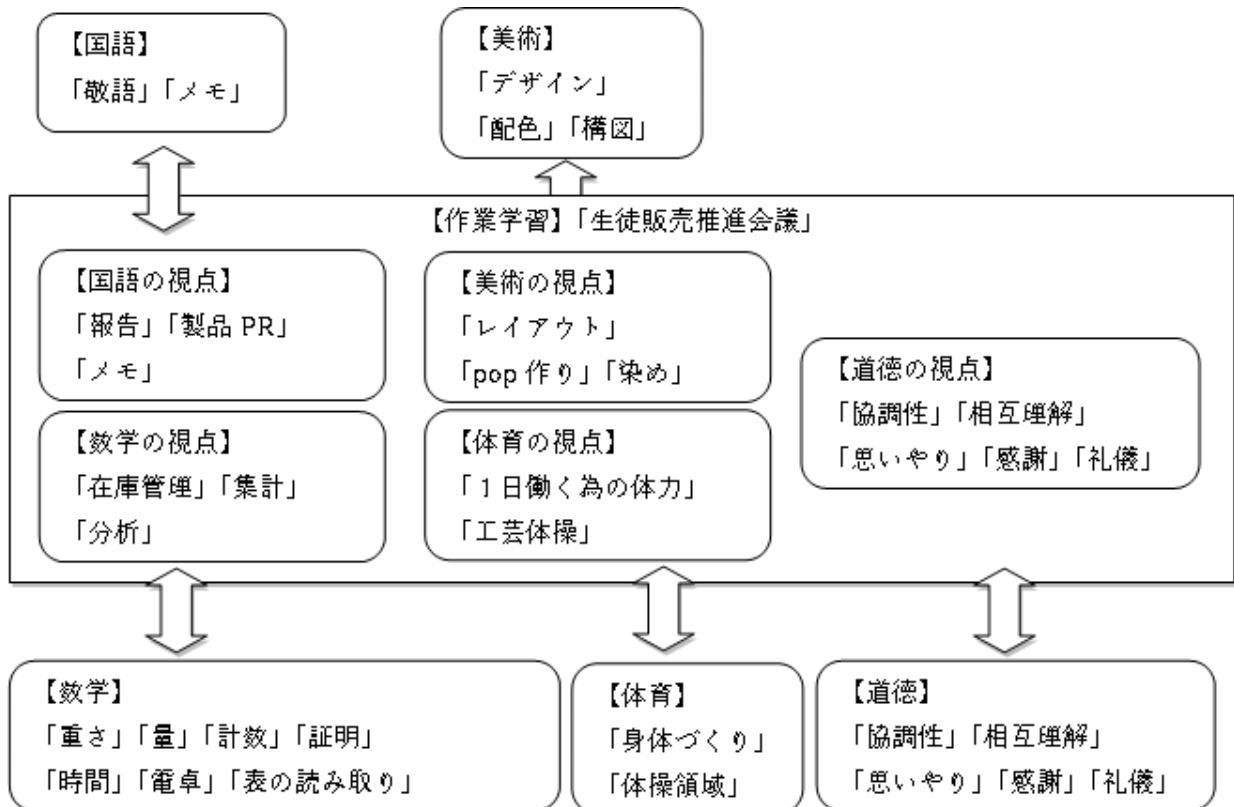
2 研究授業・公開授業の様子

<令和5年度>

高等部8・9組 作業学習 「生徒販売推進会議」 T1授業者 井田 穂乃佳

児童生徒の実態	高等部職業自立コース（1年生5名、2年4名、3年1名 7・8歳～11歳程度） ・知的障害を有する生徒が在籍しており、自閉症のある生徒が3名いる。		
本時の目標	・工夫して速く正確に半券の処理ができる。 ・今回の販売会の振り返りを行い、次回の販売会の改善点を考えることができる。		
つけたい力	・正確に半券の枚数を数えることができる。 ・適切な声の大きさや内容で報告することができる。 ・販売会を振り返り、共同して次回の販売会へ向けての改善点を考えることができる。		
目指す児童生徒の姿	主体的	対話的	深い学び
	 振り返って次へつなげる	 協働して課題解決する	 自分の思いや考えと結び付ける

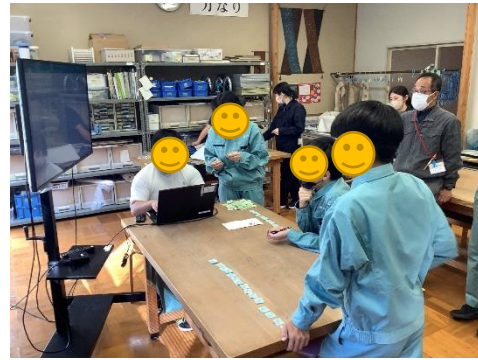
○教科の視点



○学部研の様子

- ・大型テレビを使用し、机を円に向き合うように配置。
- ・大型テレビを見て、出た意見をそのまま入力していきまとめることにより、協働的に行うことができた。

○授業の様子



○成果

- ・他教科とのつながり、数学の計数、効率、正確にできていた。
- ・半券整理、売上傾向分析、などなど、生徒自身がやるんだということを意識できるようになった。
- ・他者とのコミュニケーションが自然にできるようになってきた。半券の数え方など。
- ・半券の数え方など、他者の数え方を取り入れる姿があった。学び合う姿があった。

○課題

- ・指導者の入り方。入り過ぎた。
 - ① 生徒の立場で指導者が入り発言する。まとめるのは生徒。
→相手を評価するなど、自然な感じで対話ができるように促す。
 - ② 全く入らない。
→自分たちでまとめる練習を他教科で積んでいく。
 - ③ 環境を整える。
→机を移動し、円に向き合うようにした方がよかったかも。
- ・いかに生徒が主体的に動けるのか。

3 ICT活用についての成果・課題

- タブレットを使用して調べ学習をしたり、まとめたり、プレゼンや発表を行ったりするなど、活用する機会を多くもてた。
- タブレットと大型テレビの活用により、全員で情報を共有しながら学習を行うことができた。
- 調べ活動を意欲的に取り組めた。
- 時間を区切らないとずっと調べていることがあるので活動時間を決める必要がある。
- タブレット同士の連携面では、もっと面白い活用ができるのではないか。(例) アプリ「フリーボード」を使用して複数のタブレットで共同作業を行う。

4 グループとして1年間の研究の成果と課題

- 各教科と連携させることにより、効果的な作業学習を行えた。(効率よく作業をする力がついてきた。)
- 相談する機会を増やすことにより、相手の意見を取り入れようとする姿勢が見られた。
- 報告の仕方など、個人個人の課題に対するアプローチ
- 教科学習では、生徒たちが能動的に相談する場面を設定するのが難しかった。(時間意識・テーマ設定・個々の課題)

5 次年度に向けて

- ・生徒同士が主体的に相談できる授業・環境づくり
- ・教科領域間の連携を年度当初に計画する。

1 第2回 活動の様子

・『応用行動分析について』

前半：応用行動分析について（川村Tから講義）

後半：グループ毎に対象児童生徒1名

◎気になる（減らしたい）行動を整理

A：先行事象 B：行動 C：結果 要因 望ましい行動は何か

◎望ましい（増やしたい）行動を整理 A：先行事象 B：行動 C：結果



2 第3回 活動の様子

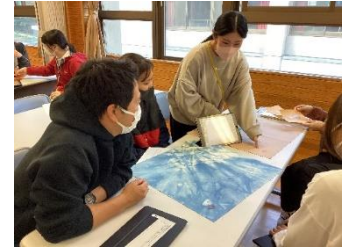
① 応用行動分析後の子どもの様子や指導について

② 地域とつながりをもった授業交流

・教科名等 ・地域とのつながり（場所・人）

・ねらい、活動内容等

◎更にできそうなこと、必要なこと



3 講演について

『応用行動分析に基づく子どもの理解と支援

～ポジティブ行動支援による予防的なアプローチ～』

近畿大学 総合社会学部

日本ポジティブ行動支援ネットワーク 理事 大対 香奈子 准教授



<感想より>

- ・問題行動と感ずる行動は、指導や支援がきっかけとなっていることを心に留め、変えていこうと思いました。
- ・きつく注意する、厳しいルール作り、監視などはその場でできるようになったとしても、教育的な効果は高くはないということが分かりました。

4 成果と課題

<成果>

（タテ研のまとめの意見より）

- ・一貫したテーマで取り組むことができて良かった。
- ・応用行動分析のワークシートを活用して、児童をアセスメントし、指導・支援について深めることができた。
- ・少人数の班に分かれて交流や研修を行ったので、活発に意見が出し合えた。
- ・他学部の先生と交流ができ、授業について色々知ることができた。
- ・日々の実践にすぐ役立つような情報やテーマがありすごく勉強になった。

<課題>

- ・タテ研の目的に系統性の検証とあるが、検証することは難しく交流程度だった。
- ・講演が先にあった方が、理解して実際のワークで取り組みやすかった。（講師がアメリカに行かれていたため、1月の講演となった）

5 次年度に向けて

（タテ研のまとめの意見より 今後学びたいこと・知りたいこと）

- ・PBSについて。年間を通してPBSの実践と報告
- ・コミュニケーションの学習の系統性、PECSの指導方法
- ・支援グッズの交流 ・サバンの力をもった児童生徒の能力紹介
- ・教科等を絞って授業や教材交流 ・発達年齢、生活年齢 ・強度行動障害
- ・自発的、主体的な行動につながった指導方法、授業内容 ・自立活動の取組
- ・ASDの障害特性の理解と支援 ・アンガーマネジメントの手法 ・系統的な指導

1 第1回 活動の様子

① 学級の紹介

- ・学級生徒の特長と実態、課題などの共有

② 講演『愛着障害の理解と支援』

～自動心理治療施設での実践から～

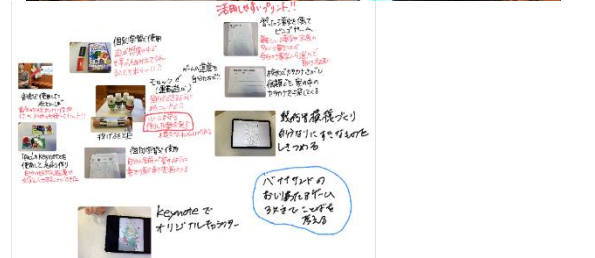
児童心理治療施設るんびに学園支援課長 朝比奈先生



2 第2回 活動の様子

・教材の交流

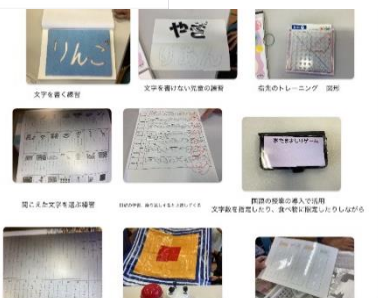
アプリ「フリーボード」を活用して、普段使用している教材の紹介と説明を行い、交流した。



3 第3回 活動の様子

・まとめ（学部を超えたタテの繋がり、系統性の検証）

日程変更などもあり、中止



4 成果と課題

<成果>

- ・学級紹介は、各学部、学級、グループの児童生徒の実態がよくわかった。
- ・教材交流は、各学部や学級の日頃の学習の様子が分かった。
- ・教材について学べ、実践に繋がった。実際に教材をデータでもらって活用できた。
- ・講演会は、実践の参考になった。勉強になった。

<課題>

- ・系統性の検証については、日程変更などもあり、実施できなかった。

5 次年度に向けて

（タテ研のまとめの意見より 今後学びたいこと・知りたいこと）

学級紹介 : 来年度も緊急対応や配慮事項も含め、実態交流ができると良い。

教材交流 : グループ分けを段階別や教科別に行う。交流時間を長くする。

講演会 : LDの指導法、授業やあそびで使えるアプリ、ダウン症児の事例、障害受容について
知的障害教育における授業づくりと学習評価
生単や自活の授業実践、様々な実践や事例
愛着障害やポジティブ行動支援について
良かった講演は数年後など定期的に聞きたい。

系統性の検証 : 「各学部でつけておいてほしい力」などの交流

小から高まで通しての子どもの報告

新しい個別の指導計画を使った交流

学校として系統立てたときにもう少し周知したり残っていくものがあると良い。

グループごとに対象児童生徒をしぼって現状を共有し、アドバイスし合い、その後のタテ研に取り組んだ経過を報告しあう。

1 第2回 活動の様子

- ・『スパイダーの実技研修』



2 第3回 武藤PTによる講演

『身体の発達 発達に応じた支援』

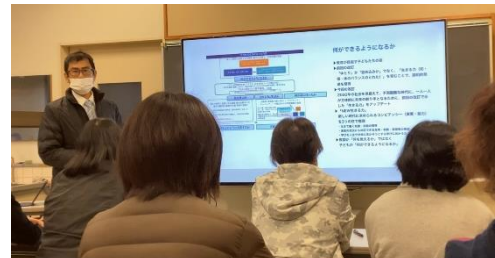
支援者として当事者として

子どもを見るときに大切にしていること



3 第4回 自立活動について

自立活動の個別の支援計画について（春田先生より）



4 成果と課題

<成果>

①「スパイダーの実践を通しての学び」

- ・本校の子どもたちを通しての実技研修はとても分かりやすかった。
⇒日常的に取り組んでいることへの理解が深まり、実践の広がりにつながった。

②「専門性を高める学びの機会となった」

- ・知りたい内容を知ることができた。
- ・校内で専門性の高い先生から学べる機会があるのはありがたい。

<課題>

①「学部を超えたタテの繋がり・系統性の検証」

- ・学部間の交流にとどまる。研究部の研究テーマもありながら、系統性の検証をするところまではいかない。

②「研究部とのつながり」

- ・研究部の中に入っているが、研究部のテーマとつながりや関連はない。

5 次年度に向けて

<要望として挙がっていること>

- ・重度重複の子どもたちについて学ぶ
- ・ベテランの先生から学ぶ
- ・実践的、体験的な内容を大事にする
- ・スパイダー研修

<改善点>

タテ研の目的の見直し 研究部の研究と統一性を持たせていくことは可能か？

⇒研究部は研究部としての研究がある。タテ研として研究を深めることは難しくないか。研修の機会と捉えるしかないのではないか。